

## ポローニャ大学 協定留学（交換留学）月例報告書（2022年10月）

文化政策学部 国際文化学科4年 外川内瑞季

10月から、大学の授業が本格的にスタートした。

私の関心のある分野の授業は大学院レベルのものもあり、とても緊張しながら、初回の授業に参加した。毎回大量の課題文献がある授業がほとんどで、学生一人ひとりの自己紹介から始まる授業もあり、正直、楽しみよりも不安や緊張が大きかったことを覚えている。これらの授業は、いまの自分自身がこなせるものではないと判断したため履修は見送った。また、他の授業でも、自分が考えていたものとは異なる授業が多く、実際に参加してみないと分からないことを痛感した。時間割作成や授業選択が上手くいかず落ち込んだが、初めから全て順調に進むものではない、と気持ちを切り替えて、いまは目の前のことに取り組んでいる。

現在履修中の授業は、10月から始まったイタリア語のコースである。「CLA」という、ポローニャ大学付属の語学センターが、留学生向けに開講しているコースだ。私のクラスは10人ほどで、私以外は皆、スペインやドイツなどヨーロッパからの学生だ。当然だが、教科書も先生の説明もすべてイタリア語かつ、当たり前のように先生も学生もスラスラ話すため、私にとっては簡単ではない。日々、自分の力はまだまだだな、と感じるが、もっとイタリア語を上達させよう、という気持ちで前向きに取り組んでいる。

また、学部の授業では、「Introduction to Italian Culture」という、イタリアの社会や文化紹介の授業を受講している。主に留学生に向けた授業で、英語で開講されている。毎回、異なる先生によって授業が開かれ、これまでに文学、テレビ、政治思想、産業などの講義を受けた。さまざまなトピックから学びながら、イタリアという国の面白さを感じている。

授業のことで落ち込むこともあったが、素晴らしい出来事もあった。10月22日、ポローニャ市立歌劇場にて、歌劇「アンドレア・シェニエ」を鑑賞した。イタリアの作曲家、ウンベルト・ジョルダーノのヴェリズモ・オペラである。

私は高校生の頃に、吹奏楽で「アンドレア・シェニエ」を演奏したことがあった。自分が過去に演奏したものを、オペラの本場であるイタリアにて（いわゆるホンモノを）この目でこの耳で鑑賞していることに、とても感動した。物語、歌手、オーケストラも素晴らしく、思わず涙が溢れた。同時に、今まで音楽をやってきて、そして、あきらめないでポローニャに来て、本当に良かった、と心から思った。

とても嬉しいことに、ポローニャ大学の学生は10€でチケットを購入できる。通常、オペラ鑑賞には約50-100€必要であるため、私にとってこの環境はParadisoである。今回、私たちは二等席で鑑賞したが、一等席で鑑賞できるチャンスもあるかもしれない。今後も毎月のようにオペラが上演されるため、毎月行って楽しむことを決めた。

今月は、新しい出会いも多かった。イタリア人の学生、さまざまな国から集まった留学生と知り合った。また、「Collegium Musicum Almae Matris」という、ボローニャ大学の合唱団に入った。毎週夜に2回、皆で集まって歌っている。イタリア人の学生も留学生も一緒に活動するため、毎回新しい出会いがあり、友達もできた。合唱自体もとても楽しいため、これからも楽しく歌っていきたい。

11月は、勉強はもちろん、できるだけ色々なところに出かけて、たくさんのものを見聞きすることを目標に過ごしていきたい。



ボローニャ歌劇場の写真です。一緒に鑑賞したSUACの土居さんも「アンドレア・シェニエ」を演奏したことがあり、二人で感動を分かち合いました！



10月2日に、ミラノに行きました。  
ドゥオーモとヴィットーリオ・エマヌ  
エーレ2世のガレリアです。本や映像  
で見ていたものが目の前に広がって  
いることに、とても感動しました。  
天気もとても良く、本当に美しかったです！